

河川を基軸とした 生態系ネットワークの取組

国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課

河川を基軸とした生態系ネットワーク

- 川は、森林や農地、都市などを連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸であり、流域の中でまとまった自然環境を保持している貴重な空間
- 国土交通省では、流域における多様な主体と連携し、川の中を主とした取組から、流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、流域の農地や緑地などにおける施策とも連携しながら魅力的で活力ある地域づくりを支援

河川を基軸とした生態系ネットワークのイメージ



- 川の中での取組み
＜河川管理者＞
- 堤内地での取組み
＜自治体・農業関係者・NPO・学校・企業など＞
- 期待される効果

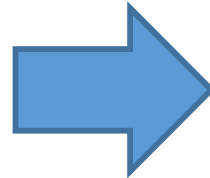
流域の多様な主体が連携して生態系ネットワーク形成に向けた取組みを行うことで、地域の自然環境が豊かになるだけでなく、様々な地域振興や経済活性化の効果が期待されます。



* 冬期湛水
稲作が行われない冬期に田んぼに水を張り、カエル類の産卵場やガン・カモ・ハクチョウ類の休息場所の確保、雑草の繁茂を抑制する取組みのこと。

* 江（え）
田んぼの脇などに深みを作り、田んぼの水がなくなった時にも生きものが逃げこめるようにした場所のこと。

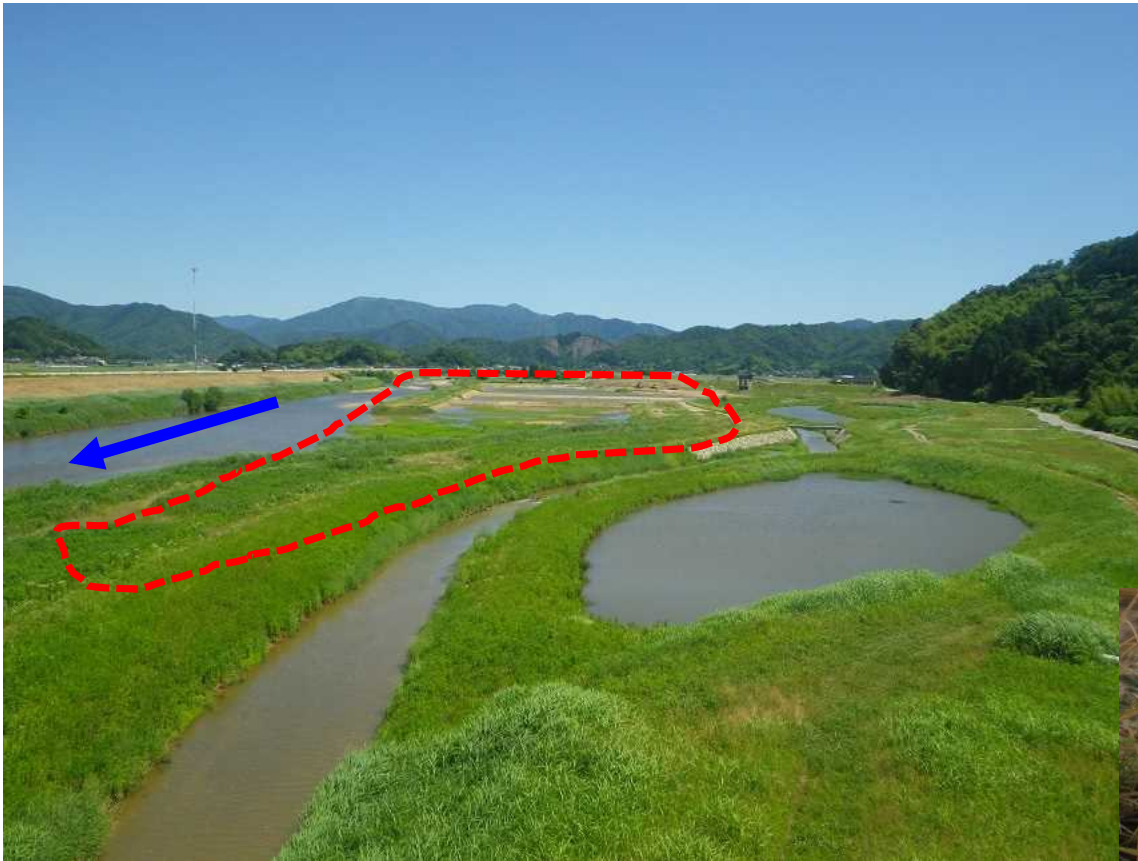
整備前



整備中(平成27年12月)



整備後



水辺からはじまる生態系ネットワークの効果

環境基本計画（平成30年4月17日閣議決定）

第2部 環境政策の具体的な展開

第2章 重点戦略ごとの環境政策の展開

2. 国土のストックとしての価値向上

（生態系ネットワークの構築）

大型鳥類等をシンボルとし、河川を基軸とした流域での生態系ネットワークを構築する。

具体的には、河川の連続性の回復、氾濫原や湿地の再生、河川と流域の水路・池・沼・水田などの水域の連続性の確保、希少動植物の生息・生育地の保全再生、環境保全型農業の推進とこれら農業で生産された農産物のブランド化、自然資源を活用した観光などの取組を進め、生物多様性の保全、地域振興と経済活性化を促進するとともに、気候変動などの環境変化に際して、生物が移動・分散する経路の確保にも貢献する。

流域における取組

農作物のブランド化の例



コウノトリれんこん
〔徳島県鳴門市〕



コウノトリ呼び戻す農法米
【福井県越前市】

野鳥観察会ツアーの例



宍道湖グリーンパークでカモ観察



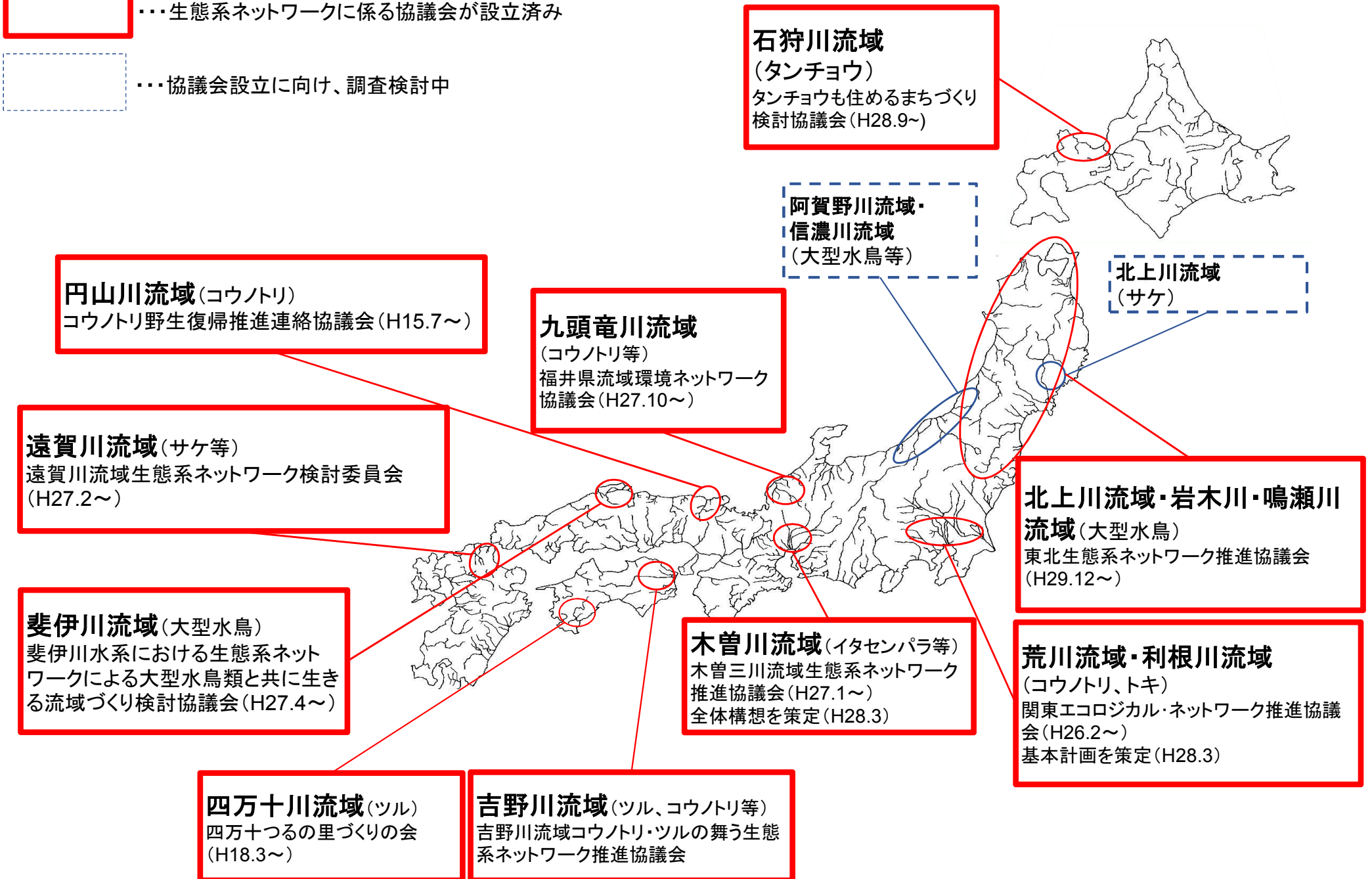
バスの中からマガンの群れを観察（

生態系ネットワークに関する各地域の取組状況

平成30年3月現在

……生態系ネットワークに係る協議会が設立済み

……協議会設立に向け、調査検討中



各地域の取組を全国へ！

◆ 生態系ネットワークが地域の共感・共鳴を生み、全国へ展開していくよう、取組を推進

共感・共鳴の連鎖

